

# 2021年3月期 第3四半期 決算説明会

2021年2月2日

日本ユニシス株式会社

Foresight in sight

注力領域は堅調に推移するもICTコア領域の中小型案件減少により減収。  
新規事業創出に向けた研究開発等に積極投資を継続。

(単位：億円)

	3Q累計 (4-12月)		前年同期比 増減	
	2021/3期	2020/3期		
売上高	2,133	2,189	△56	△2.6%
売上総利益	557	559	△2	△0.3%
販管費	△394	△393	△1	△0.2%
営業利益	162	165	△3	△1.6%
(営業利益率)	(7.6%)	(7.5%)		(+0.1pt)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	109	119	△10	△8.4%
受注高	2,137	2,030	+107	+5.3%
受注残高	2,310	2,107	+204	+9.7%
(内、年度内売上予定分)	613	585	+28	+4.7%

## &lt;3Q累計決算のポイント&gt;

## ■売上高

アウトソーシングサービスが引き続き堅調に推移した一方で、ICTコア領域を中心に既存システムの改修先送り等からシステムサービスが減少。

## ■営業利益

売上総利益はシステムサービスでの減収に伴う減益をアウトソーシングサービス等でカバーし微減。新規事業創出に向けた研究開発費が増加したほか自社セキュリティ基盤強化に伴い販管費が増加し、営業減益。

## ■受注高・受注残高

第2四半期に続き第3四半期においても長期大型アウトソーシング案件およびDX関連の機器販売案件が積み上がり受注高および受注残高は増加。受注残高のうち年度内売上計上予定分についても製品販売を中心に増加。

【ご参考】 3Q累計 (4-12月) 業績の推移 (単位：億円)



UNISYS

1

©2021 Nihon Unisys, Ltd. All rights reserved.

まずはじめに、2021年3月期第3四半期の決算概要について、ご説明します。

1ページをご覧ください。

第3四半期累計の業績は、売上高は前年同期比△56億円減収の2,133億円、営業利益は前年同期比△3億円減益の162億円、四半期純利益は前年同期比△10億円減益の109億円となりました。

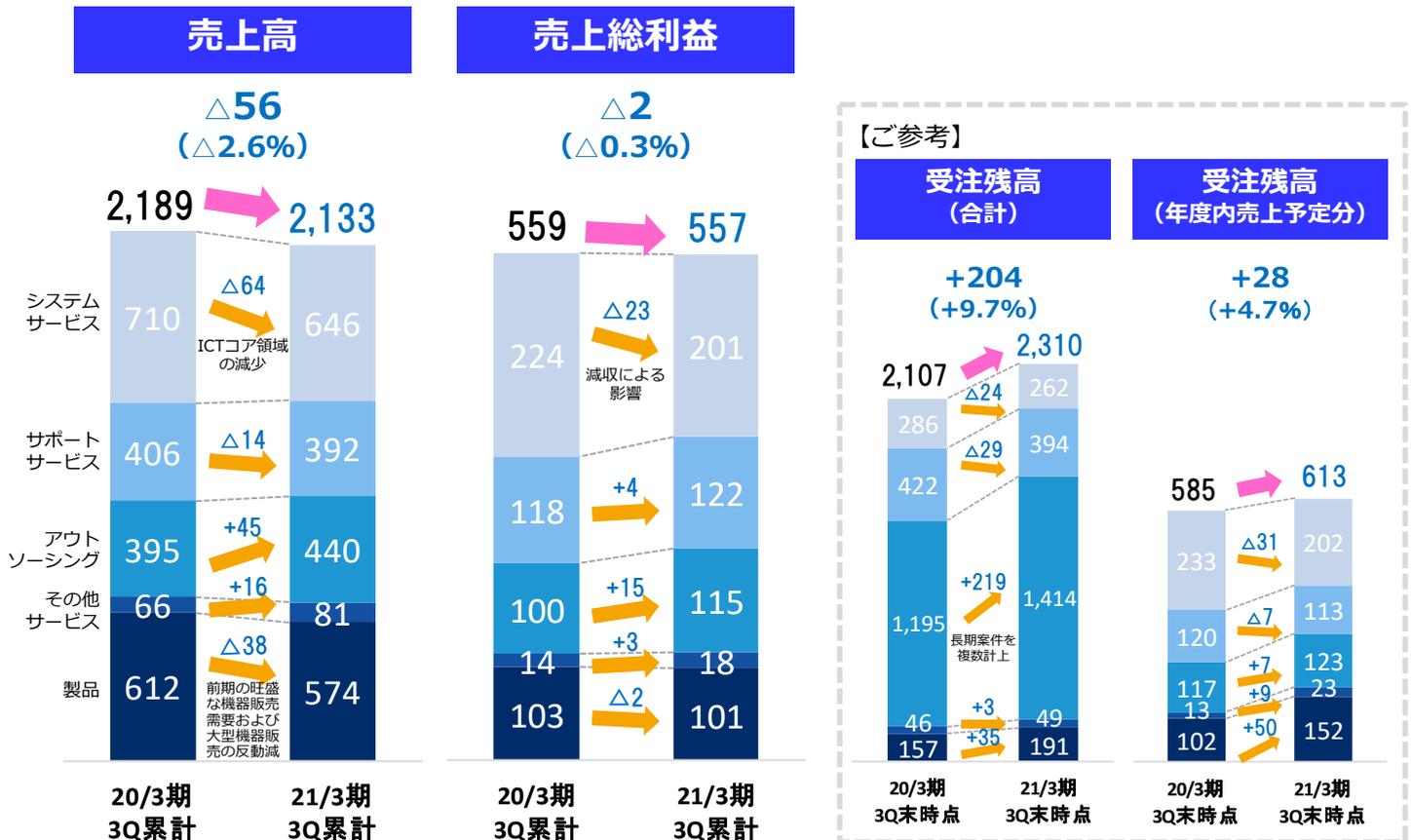
売上高は、DX関連売上や、システムサービスからアウトソーシングサービスへのシフトが順調に進捗しているものの、ICTコア領域での中小型案件を中心に、投資の戻りに若干遅れがある影響もあり、前年同期比△56億円の減収となりました。

利益面では、アウトソーシングサービスにおいて増収効果と収益性改善があったものの、システムサービスにおける減収の影響をカバーするに至らず、売上総利益は前年同期比△2億円の減益となりました。

また、販管費については、新規事業創出に向けた研究開発費の増加や、自社セキュリティ基盤強化のための投資増等により前年同期比△1億円の増加となりました。その結果、営業利益は前年同期に比べ△3億円の減益となり、四半期純利益についても営業減益と受取配当金の減少、税負担の増加等から、前年同期比△10億円の減益となっております。

受注につきましては、第2四半期に引き続き、第3四半期においても長期アウトソーシング案件を獲得したことに加え、製品販売においても電子棚札やGIGAスクール案件が積み上がったことから、受注高、受注残高ともに増加しております。また、受注残高の内の年度内売上予定分につきましても、製品販売を中心に増加しております。

(単位：億円)



次に、セグメント別の状況についてご説明します。  
2ページをご覧ください。

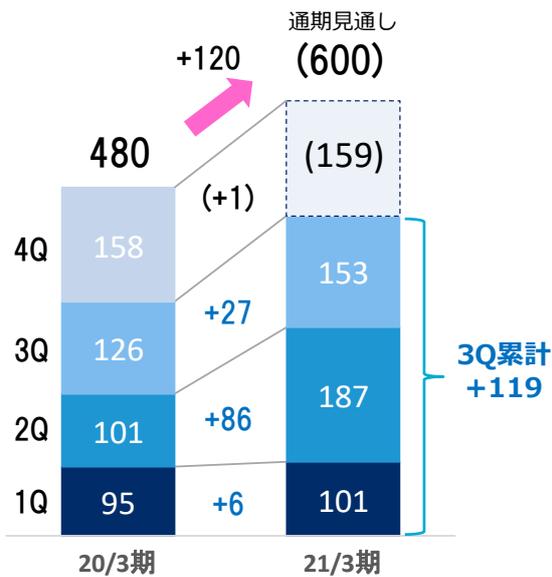
システムサービスは、デジタルトランスフォーメーション関連の案件は比較的堅調に推移しているものの、ICTコア領域においては中小型の既存システムの改修案件を中心に、案件は動き出しているものの、戻りが遅いなどの影響もあり、減収・減益となりました。なお、第3四半期において新たな不採算案件は発生しておりません。

サポートサービスは、減収となったものの、サポート拠点の統廃合などのコスト削減施策の効果により収益性は改善しており、増益となりました。

アウトソーシングは、金融機関向けの勘定系サービスや中小型のITアウトソーシング案件が積み上がってきたことから、増収・増益となりました。なお、運用効率の改善により売上総利益率も引き続き改善しております。

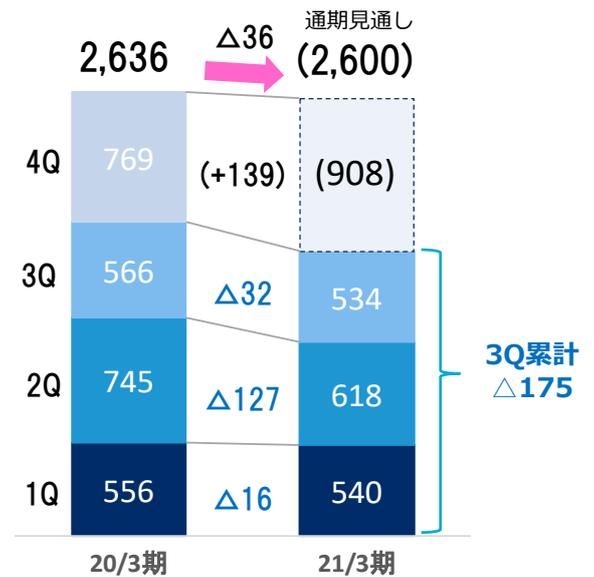
製品販売は、第2四半期同様に第3四半期においても小売業向けDX案件やGIGAスクール案件などの計上があり、第3四半期の3か月間では増収となりましたが、前期の上期においてPC・タブレットなどの小型機器の需要が旺盛だったことや、前期第1四半期に大型機器販売案件の計上があったことなどの影響が大きく、第3四半期累計では減収となっております。

## 注力領域 売上高



- ・小売業向けを中心とした業務系のDX関連ビジネスおよび教育DX（GIGAスクール関連）の機器販売案件が堅調に推移
- ・ドライブレコーダー、エネルギー管理関連の利用も着実に拡大

## ICTコア領域 売上高



- ・一部業種における投資抑制、バックオフィス系システムを中心とした案件先送りが継続
- ・前年第3四半期におけるメインフレームの製品販売が剥落

続きまして、中期経営計画における注力領域のビジネス状況をご説明いたします。  
3ページをご覧ください。

当第3四半期累計における注力領域の売上高は、前年同期比+119億円増加の441億円となりました。  
第3四半期においても電子棚札やGIGAスクール案件などの製品販売の計上があり、デジタルトランスフォーメーション関連案件の増加から、注力領域の売上高は堅調に拡大しています。

なお、手数料型ビジネスにおける売上高も、前年同期比で増加傾向が続いております。  
コロナ禍の影響でインバウンドやカーシェアリング関連のビジネスは低調な状況ではありますが、昨年度減少トレンドにあったバリューカードビジネスが、巣ごもり需要等の影響もあり引き続き増加傾向となっているほか、ドライブレコーダー、エネルギー管理関連などのサービスが着実に拡大している状況です。

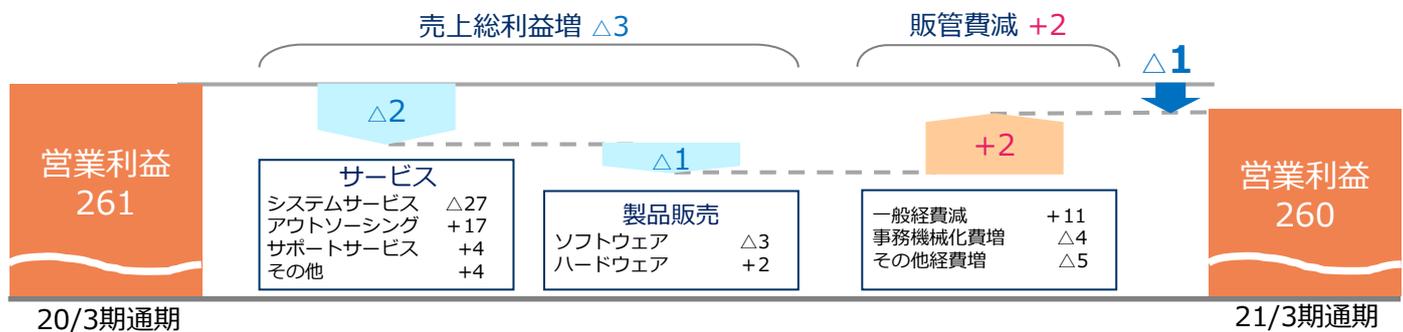
✓ 通期予想は前回（11月6日）公表値から変更なし。

（単位：億円）

	21/3期 3Q累計実績		21/3期 4Q予想		21/3期 通期予想		21/3期中期経営計画 計数目標
	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前期比	金額
売上高	2,133	△56	1,067	+140	3,200	+84	3,200
営業利益	162	△3	98	+1	260	△1	
（営業利益率）	（7.6%）	（+0.1pt）	（9.1%）	（△1.3pt）	（8.1%）	（△0.3pt）	8%以上
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	109	△10	61	△2	170	△12	

## 【2021年3月期 通期予想 営業利益の増減分解】

\* 通期予想の内訳は補足資料をご覧ください。  
（単位：億円、増減は前期比）



最後に、業績予想についてご説明いたします。  
4ページをご覧ください。

通期の売上高、営業利益、当期純利益予想につきましては、11月6日の公表値から変更ありません。

コロナ禍による影響の大きい業種のお客様を中心に投資の先送りが続いており、緊急事態宣言の再発出等から先行き不透明な事業環境ではありますが、足元の受注残高は積み上がってきており、受注残のうち年度内の売上予定分も前年同期に比べ増加している状況です。

第4四半期においても、現状のパイプラインの中から、電子棚札やGIGAスクール案件等の比較的大規模の製品販売案件の計上を見込んでおり、デジタルトランスフォーメーション関連の案件も引き続き堅調に推移することが見込まれることから、通期の業績見通しは売上高・利益ともに据え置きとしております。

以上をもちまして、2021年3月期第3四半期 決算概要の説明を終了いたします。ご清聴ありがとうございました。

# Foresight in sight

**UNISYS**

**(注意)**

本資料における将来予想に関する記述は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。実際の結果は、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予想と異なる可能性があり、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。

また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。

本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。